

—ごあいさつ—

7月1日より院長に就任しました門脇です。

大学病院ならびにその関連病院での救急救命センターを含めた脳神経外科の急性期治療と、その後係わりました障害者施設での経験を基に、本年4月1日より回復期リハビリテーションに携わることになりました。

この杉並リハビリテーション病院は、平成19年4月より、長い間地域の急性期医療を担ってきました総合西荻中央病院から、回復期リハビリテーションを集中して行う病院へと変わりました。現在、101床全てが回復期リハビリテーション病棟となり、脳血管障害や大腿骨頸部骨折などを始めとしたさまざまな病気で生じた機能障害に対して日常生活動作能力の向上などを目的として、多くの方々に利用いただいています。

地域に根ざした「愛し愛される病院」の理念のもと、入院された方々の在宅復帰・社会復帰を支援することに、職員全員熱い思いで取り組んでいます。



かどわき ちかふさ
院長 門脇 親房

病院機能評価認定

杉並リハビリテーション病院は、平成21年3月16日付けで日本病院機能評価機構より「病院機能評価」の認定をされました。

病院機能評価とは、(財)日本医療機能評価機構が実施している医療機関を対象とした第三者評価のことで、“診療の質の確保”や“看護の適切な提供”など医療機関の質を高める為の詳細な審査が行われます。

各評価項目が認定基準に達していると判断された場合、“病院機能評価認定証”が発行されます。当院も、半年にも及ぶ期間、職員全員で準備いたしました。本当に大変でしたが評価をして頂いて良かったと思っております。

今後も、機能評価認定病院として恥じぬよう、医療の質の向上を目指し、回復期リハビリテーション病院として、地域の皆様のお役に立ち、地域の皆様から「認定」される病院を目指し職員一同精進してまいります。



リハビリテーションについて

「リハビリテーション（リハビリ）」という言葉から、病気や外傷（けが）によって、動けなくなった手足や、弱った体を「訓練」し、「鍛える」ことを思う方も多いでしょう。こういった「機能回復訓練」もリハビリではありませんが、実は一部にしか過ぎません。



いしはら みやこ
リハビリテーション科 医師 石原 京

人は、身体的にあるいは精神的に障害を起こすと、「歩く」、「食べる」といった基本的な動作に支障をきたすのみでなく、それまでの家庭生活・社会生活をも制約されます。こうした、障害のある人に対して、残された能力をできるだけ回復させ、または新たな能力を開発し、積極的にそれぞれの

「生活」へ復帰させる、一連の働きかけがリハビリです。

当院の入院対象は、病気や外傷の発症から、1～6カ月の「回復期」です。患者さんは、朝晩は着替えて、できるだけ通常の生活に近い一日を送ります。前述の「機能回復訓練」も、訓練室等で日々2～3時間行われますが、着替え、食事、移動、排泄、入浴といった日常生活活動そのものをリハビリと考え、病棟ではリハビリ専門職、看護師、介護士が患者さんの能力に応じた介助を行い、自立性の向上をめざします。



障害は残っても、住み慣れた家での生活を取り戻していただくために、自宅改修のアドバイスを行い、必要な福祉用具を選択します。また介護保険等でリハビリを継続できるよう手続きをすることも広い意味でのリハビリと言えます。

入職にあたって・・・

初めまして。今年の4月よりリハビリテーション科医師として勤務している杉本です。

今までリハビリテーション医療（以下リハビリ）を、千葉、神奈川、東京（八王子）、そして北陸の金沢で行ってきました。その経験を活かし当院でもより良いリハビリを行っていけるよう頑張りたいと思っています。

少子高齢化、老々介護、介護難民等、障害の方が生活しにくくなっています。そこで、障害の程度をより軽度にし、また障害が残っても Q.O.L. を下げないような、自助具の使用、社会福祉の利用等を検討し提供していければと思っています。

私のリハビリ医療に対する考えは、明るく楽しくですので、笑顔を絶やさず日々の訓練を行っていければと思っています。



すぎもと あつお
リハビリテーション科 医師 杉本 篤夫

はじめまして!!

4月から柳谷看護部長の後任として杉並リハビリテーション病院に着任いたしました。

当院は昨年の6月に完全回復期リハビリテーション病院（病床数 101 床）となり、急性期病院から患者様を受け入れ、在宅復帰を目指して、リハビリスタッフ、看護・介護等の専門スタッフが多種で患者様に日々関わっています。患者様が日常生活動作を再獲得していくための道のりはとても厳しく長い道のりです。私たち病院職員の役割は、患者様の“意欲”を支え続けることです。そして、ここでのリハビリは終わりではなく、入院期間中に退院後も継続して取り組めるリハビリメニューをご家族の方と共に学習し、ご自宅で実施できることが機能を維持していくためには重要なポイントとなります。

今後も病院職員が一丸となり、患者様・ご家族様のお力になるよう全力で取り組む所存です。



みずかみ みつこ
看護部長 水上 美津子

★特集★リハビリテーション科 ～言語聴覚士編～

言語聴覚療法では患者様の自立と社会参加を支援するために、コミュニケーション障害・認知症や注意障害、記憶障害などの高次脳機能障害・摂食・嚥下障害に対し、回復、機能代償方法の習得、環境整備、心理的サポートなどを行っています。

現在、当院の言語聴覚士（以下ST）は5名在籍しております。

コミュニケーションでは、“聴く・話す・読む・書く”の側面に障害がみられる“失語症”の方や、呂律が回らない・声が小さいなどの症状がみられる“構音障害”の方々に、円滑なコミュニケーションがとれるよう訓練を実施し、また適切なコミュニケーション環境を整えるために、家族の方など周囲のかたへの働きかけをしていきます。

高次脳機能障害の患者様は、さまざまな変わった症状が現れるため自分でも症状を自覚できないことがあり、また周囲からも理解されにくいことが多いです。社会的にもあまり認知されておらず誤解を受けることもあります。このため、STは患者様の症状に合わせた訓練を実施し、周囲の方への理解を深めていけるよう、サポートしていきます。



摂食・嚥下障害に対しては、患者様が安全に食物を摂取できるように、食形態・一口の分量・姿勢や介助法などを検討し、摂食・嚥下に必要な機能の回復を図るため、訓練を実施していきます。

—摂食機能のサポート—



いしまつ かな
言語聴覚士 石松 佳奈

毎年5月19日は・・・

杉並リハの日

さる5月19日（火）に『杉並リハの日』を開催いたしました。

院内での『肩こり・腰痛講座』



これは当院開設記念日と看護の日（5/12）を兼ねたイベントで、

地域住民の皆様の健康づくりへのサポートと、当院の機能（回復期リハビリテーション、外来診療、検診など）を紹介するものです。各スタッフの協力のもと、2時間のイベントには43名の方が来場され、『肩こり・腰痛講座』、血圧測定、血糖測定、服薬・食事相談などに参加されました。

今後も地域住民の皆様との接点を大切に、またイベントを定着させ盛り上げていきたいと思っております。



院外での血糖測定・相談の様子

たなばたミニコンサート

7月7日（火）七夕の日に、当院の初の試みとなる『たなばたミニコンサート』を開催いたしました。



数週間前より患者様と一緒に『見上げてごらん夜の七夕飾りの作成をしたり、願い星を』を患者様と合唱！をこめた短冊を飾り、素敵な七夕の空間が出来上がりました。

当日は約70名の患者様が集い、スタッフによる朗読に涙したり、大きな声での合唱など、あっという間に楽しい時間は過ぎてしまいました。又、見慣れないスタッフの浴衣姿にも喜んでいただけたようです。



今後も、このように季節を感じることでできるイベントを企画していきたいと思っております。

上尾中央医療グループ 主催

CT ロック

バレーボール大会 優勝!!!

—試合中の様子—



6月21日(日)に行われたAMGバレーボール大会では、無事にブロック優勝でき、約束を果たすことができました。雨の中応援に来ていただいた方々に本当に感謝しています。選手のために荷物運びや場所とり等、皆さんのバックアップがあってプレーできているということを忘れてはいけなかったと思います。

次は8月に健保連の大会が荒川区で行われます。暑くなるので体調管理に気をつけながら、全員バレーで頑張りたいと思います。興味を持たれた方はぜひ観覧にいらしてください。



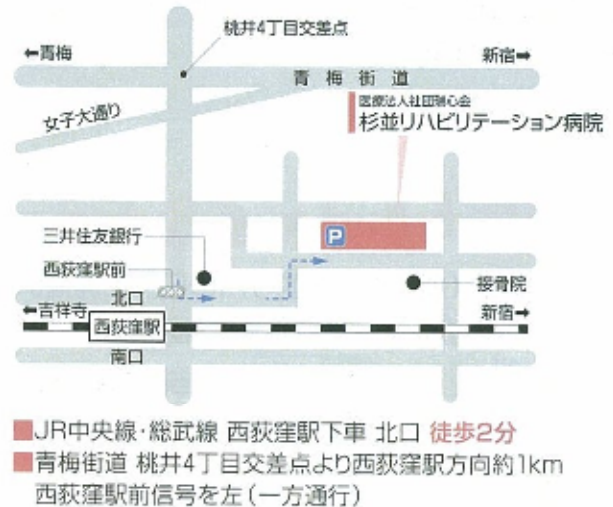
はせがわ あやこ
主将 看護部 長谷川 彩子

～当院の現況～

	平成21年4月	平成21年5月	平成21年6月
稼働率	99.4%	98.4%	98.2%
入院延べ患者数	3048人	3122人	3012人
在宅復帰率	62.2%	70.3%	72.2%
重症患者割合	21.6%	35.1%	15.8%
重症患者回復病棟改善割合	66.7%	83.3%	75.0%

* 重症患者・・・日常生活機能評価で10点以上の新規入院患者の割合
* 重症患者回復病棟改善・・・重症患者のうち3点以上の者が改善している割合

交通のご案内



—病院理念— 「愛し愛される病院」

—基本指針—

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもしろい」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

病院概要

開院	昭和43年10月
理事長	中村 康彦
院長	門脇 親房
病床数	101床(4床室・個室)
診療科目	内科・リハビリテーション科
診療時間	毎週 月・火・水・木・金 9:00~12:30
発行責任者	門脇 親房
発行	杉並リハビリテーション病院 広報委員会

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

医療法人社団 瑞心会 杉並リハビリテーション病院

〒167-0042 東京都杉並区西荻北2-5-5
TEL.03-3396-3181(代) FAX.03-3396-3186(代)
<http://suginami-reha-tokyo.jp/>